

平成 31 年 4 月 16 日

報道機関 各位

東北大学大学院医学系研究科  
東北大学東北メディカル・メガバンク機構  
東北大学病院

## お父さんにも産後のケアを！

－ 健やかな親子関係の構築のために －

### 【発表のポイント】

- 出生後の赤ちゃんに対して「愛おしい」「守ってあげたい」という感情を抱けない状態は、ボンディング障害<sup>注1</sup>と呼ばれる。
- 母親だけでなく父親にも赤ちゃんに対するボンディング障害があり、そのリスク因子に、①母親のボンディング障害、②妊婦へのドメスティックバイオレンス(DV)、③父親の産後うつ、の3つがあることを明らかにした。
- 健やかな親子関係の構築のためには、出産後の父親のメンタルヘルスケアも重要である。

### 【研究概要】

東北大学大学院医学系研究科非常勤講師(兼:福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター教授)の西郡秀和(にしごおり ひでかず)、東北大学東北メディカル・メガバンク機構准教授の小原拓(おばら たく)、東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野教授の八重樫伸生(やえがし のぶお)らエコチル調査宮城ユニットセンターのグループは、父親の赤ちゃんに対するボンディング障害のリスク因子が、①母親のボンディング障害、②妊婦へのドメスティックバイオレンス(DV)、③父親の産後うつ、であることを明らかにしました。本研究は、ボンディング障害を予防するためには、父親のメンタルヘルスケアも重要であることを明らかにした重要な報告です。

本研究成果は、The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 誌(電子版)に掲載されました。

本研究は、環境省が実施しているエコチル調査を担当している宮城ユニットセンター独自の追加調査として行われました。本研究は研究者の責任によって行われているもので、政府の公的見解を示したものではありません。追加調査の実施・解析にあたっては、日本学術振興会(基盤研究 C 研究課題/領域番号 24592457)、公益社団法人メンタルヘルス岡本記念財団、そして日本医療研究開発機構(AMED)の援助を受けました。

## 【研究内容】

出生後の赤ちゃんに対して「愛おしい」「守ってあげたい」というような感情を抱けない障害はボンディング障害と呼ばれ、放置すると育児放棄や幼児虐待に繋がりがねないため、産後のメンタルケアの重要な課題となっています(図 1)。わが国において、母親の産後のメンタルヘルスが注目されていますが、父親のメンタルヘルスについての研究は多くありません。母親のみならず父親もボンディング障害に陥る可能性があります。これまで父親のボンディング障害についての研究も、ほとんど行われてきませんでした。本調査は、父親の赤ちゃんに対するボンディング障害と産後うつの頻度、それらのリスク因子を前向き調査において検討しました。

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の追加調査として、産後1か月の父親を対象に調査を行いました。ボンディング障害の評価として、赤ちゃんへの気持ち質問票<sup>注2</sup>を用いました。本調査ではボンディング障害の程度が高い上位約10%が含まれる点数を閾値としました。産後うつ評価として、エジンバラ産後うつ病質問票<sup>注3</sup>を用いて8点以上をうつ状態としました。

産後1か月の父親1585名を対象に調査を行い1008名の回答が得られました。赤ちゃんへの気持ち質問票のうち、わが子への情緒的絆の欠如4項目合計4点以上、わが子への怒り・拒絶(怒り・拒絶)4項目合計3点以上を陽性としました。陽性の頻度は、①情緒的絆の欠如8.3%、②怒り・拒絶7.9%、③産後うつ11.2%でした(図2)。

本研究によって明らかにされた主なリスク因子は、①父親の赤ちゃんへの情緒的絆の欠如の項目については:母親の赤ちゃんへの情緒的絆の欠如、妊婦への精神的DVがあった、父親が産後うつだった、という3つの因子でした(表1)。②怒り・拒絶の項目については、母親が赤ちゃんに対して怒り・拒絶を感じる、妊婦への身体的DVがあった、父親が産後うつだった、という3つの因子でした(表2)。父親と母親の赤ちゃんへの情緒的絆の欠如の項目と怒り・拒絶という項目については、それぞれの点数が緩やかな相関を示しました。

本研究は、産後1か月における父親のボンディング障害と産後うつの実態、それらのリスク因子を明らかにしました。特に、父親のボンディング障害についてのリスク因子が、①母親のボンディング障害と②妊婦へのDV、③産後うつであることを、本研究において国際的に初めて示しました。児童虐待予防などの観点からも、産後うつも含めて、母親のみならず父親の産後のメンタルヘルスケアが重要であると考えられます。

## 【用語説明】

注1. ボンディング障害:我が子を愛おしく思い、親として守ってあげたいと思うといった、親が子どもに抱く感情を持たない障害。①子どもに無関心な状態、②子どもを拒絶する、③子どもへの怒りがある。

注2. 赤ちゃんへの気持ち質問票:子どもへの抱く気持ちについて調査する質問票であり、得点が高いほど子どもへの否定的な感情が強い。10項目の質問項目

からなり、1項目あたり0から3点である。4つの項目は「わが子への情緒的絆の欠如」、4つの項目は「わが子への怒り・拒絶(怒り・拒絶)」と関連する。

注3. エジンバラ産後うつ病質問票:産後うつ病のスクリーニングを目的として、英国のCoxらが開発した。10項目の質問項目からなり、1項目あたり0から3点である。父親は総合計8点以上、母親は総合計9点以上を「うつの可能性が高い」とする。

### 【エコチル調査について】

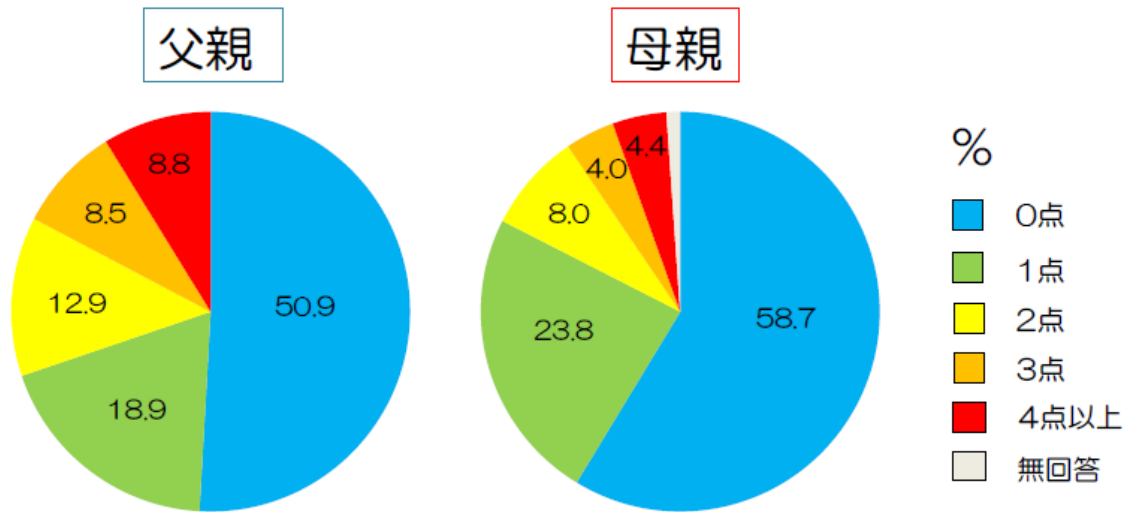
子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)は、環境が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境を作る」ことを目的に2010年度に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが13歳になるまでの健康状態や生活習慣を2032年度まで追跡して調べる計画です。

エコチル調査は、環境省が主体となり、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された15の大学に調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が共同して調査を行っています。



図1. ボンディング障害とは

わが子への情緒的絆の欠如（最高 12 点）



わが子への怒り・拒絶（最高 12 点）

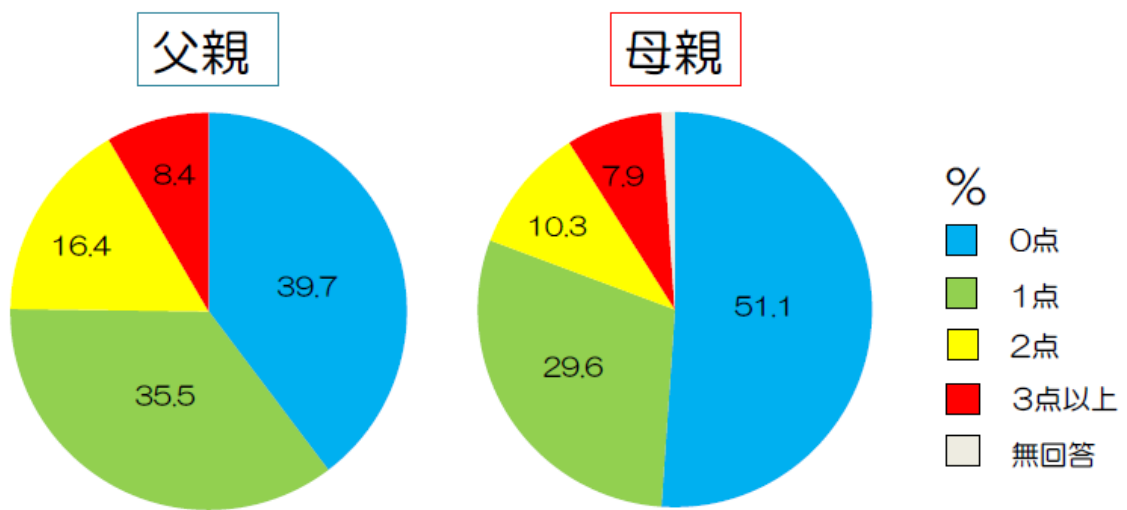


図 2. 赤ちゃんへの気持ち質問票による調査

産後うつハイリスク：父親 8 点以上 母親 9 点以上（最高 30 点）

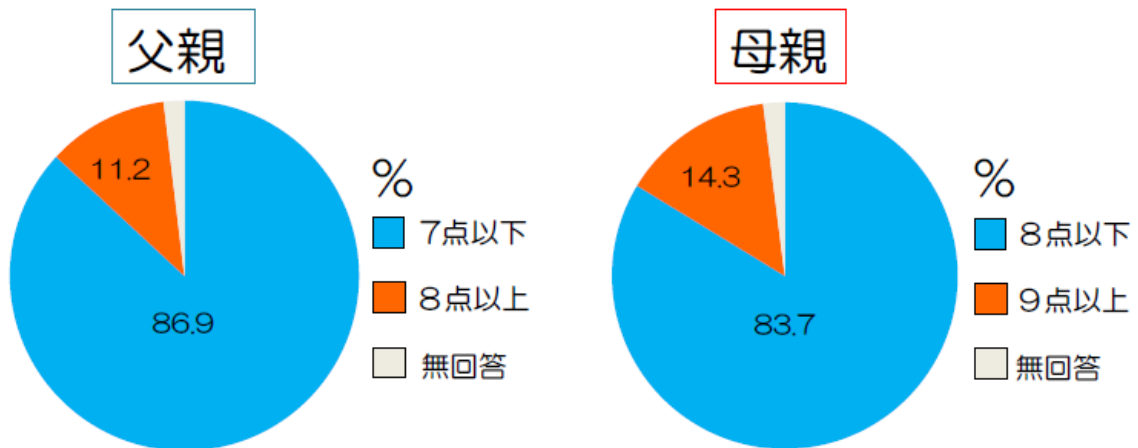


図 3. エジンバラ産後うつ病質問票

表 1. 父親について、わが子への情緒的絆の欠如（4 点以上）のリスク因子

	オッズ比	95%信頼区間		
母親：わが子への情緒的絆の欠如（3 点以上）	2.8	1.4	-	5.7
妊婦への精神的DV 既往	2.2	1.2	-	4.0
父親の産後うつ（8 点以上）	3.2	1.8	-	5.9

表 2. 父親について、わが子への怒り・拒絶（3 点以上）のリスク因子

	オッズ比	95%信頼区間		
母親：わが子への怒り・拒絶（3 点以上）	5.1	2.5	-	10.5
妊婦への身体的DV 既往	5.2	1.0	-	26.9
父親の産後うつ（8 点以上）	4.5	2.5	-	8.0

**【論文題目】**

English Title:

Mother-to-infant bonding failure and intimate partner violence during pregnancy as risk factors for father-to-infant bonding failure at one month postpartum: birth cohort study of an adjunct study of the Japan Environment and Children's Study

Authors:

Hidekazu Nishigori, Taku Obara, Toshie Nishigori, Hirohito Metoki, Satoshi Mizuno, Mami Ishikuro, Kasumi Sakurai, Hirotaka Hamada, Zen Watanabe, Testuro Hoshiai, Takahiro Arima, Kunihiko Nakai, Shinichi Kuriyama, Nobuo Yaegashi and Miyagi Regional Center of Japan Environment and Children's Study Group

和文タイトル:

「父親の赤ちゃんに対するボンディング障害の実態とリスク要因;エコチル調査追加調査より」

著者名:西郡秀和、小原拓、西郡俊絵、目時弘仁、水野聖士、石黒真美、櫻井香澄、濱田裕貴、渡邊善、星合哲郎、有馬隆博、仲井邦彦、栗山進一、八重樫伸生、エコチル調査宮城ユニットセンターグループ

掲載誌名:

The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine(電子版)

doi: 10.1080/14767058.2018.1560414.

**【お問い合わせ先】**

(研究に関すること)

東北大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター  
非常勤講師 西郡秀和(にしごおり ひでかず)

電話番号: 022-717-8082

Eメール: nishigori@med.tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

電話番号: 022-717-7891

FAX 番号: 022-717-8187

Eメール: pr-office@med.tohoku.ac.jp